



平成 22 年 5 月 14 日

各位

上場会社名 株式会社 熊谷組
代表者名 取締役社長 大田 弘
コード番号 1861
上場取引所 東証第1部

「中期経営計画（平成 22～24 年度）」の策定に関するお知らせ

建設市場はこの数年で激変し、建設業は今大きな転換期を迎えております。景気回復の遅れによる民間建設投資の低迷、公共事業予算の大幅な減少等により、国内建設市場は想定を上回るスピードで縮小しております。一方、戦後整備されてきた社会インフラが更新期を迎えることに伴う維持・補修、低炭素社会の実現に向けた環境関連投資、建物をより長くより大事に使うためのリニューアル需要の増大など、建設市場は今後も大きく変貌していくものと思われま

す。このような経営環境のもと、建設市場の変化を先取りしてお客様に新たな付加価値を提供し続けることが弊社の存在意義と認識し、新たに「中期経営計画（平成 22～24 年度）」を策定いたしました。

「誠実な営業」「誠実な施工」「誠実なフォロー」という不変の基本姿勢のもとに、全社を挙げて本計画の達成に取り組み、「お客様から信頼される企業」を目指してまいりますので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【業績計画】

【連結】 (単位：億円)

	H23/3期	H25/3期
売上高	2,500	2,570
営業利益	37 1.5%	46 1.8%

【単体】 (単位：億円)

	H23/3期	H25/3期
受注高	1,900	2,000
売上高	1,940	1,930
営業利益	28 1.4%	33 1.7%

主な事業戦略につきましては、添付資料をご参照ください。

<本件に関するお問い合わせ先>

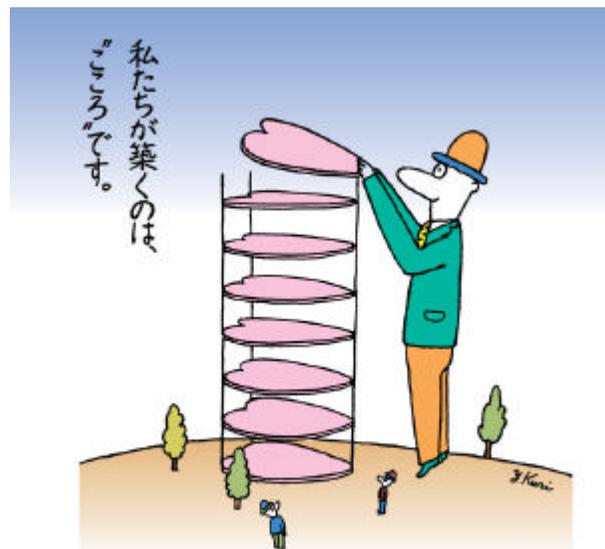
株式会社 熊谷組

広報室 03-3235-8155

主計部 03-3235-8606

中期経営計画

(平成22～24年度)



平成22年5月



熊谷組

目 次

1. 環境認識 2

2. 経営課題と基本方針 3

3. 戦略

- (1) 土木事業戦略 4
- (2) 建築事業戦略 5
- (3) グループ戦略 6

4. 数値目標 7

1. 環境認識

■ 縮小する建設市場における競争の激化

- ✓ 景気回復の遅れによる民間建設投資の低迷
- ✓ 公共事業の大幅な減少
- ✓ 建設投資縮小の流れは当面続く

■ 今後の建設市場

- ✓ 戦後整備されてきた社会インフラが本格的な更新期を迎えている
- ✓ 電力 鉄道等の分野においては、安全 安心の観点からの建設投資が見込まれる

■ お客様が建設業に求めるサービスの質に変化が生じている

- ✓ 建設物をより長く、より大事に。維持補修・リニューアル需要の増大
- ✓ 新エネルギー関連、汚染土壌処理等、環境関連市場での需要拡大
- ✓ PF 等、民間のノウハウを活かした公共施設整備・維持事業の増大

2. 経営課題と基本方針

■ 経営課題

変貌する建設市場において、当社グループ全体で変化を先取りし、お客様に新たな付加価値を提供し続けること

■ 基本方針

“ものづくり”業から一歩進み、建設に係わる“サービス”を提供する企業グループを目指します
誠実な営業、誠実な施工、誠実なフォローによりお客様の信頼に応え続ける企業グループを目指します

法令を完全遵守し、安全・品質・環境ナンバーワンの企業グループを目指します

3. 戦略(1)

■ 土木事業戦略

得意分野 (シールド、トンネル)への注力と民間市場への取り組みの一層の強化

単位 : 億円

	H23/3期		H25/3期
受注高	700	➔	700
官庁	350		350
民間	350		350
売上高	660		680

■ 重点施策

1. 民間分野 (電力、鉄道、通信等)における営業体制の強化
2. 利用者や地域への配慮を含め、より発注者の観点に立った提案力の強化
3. 経年劣化が進むトンネルの補修や橋脚の耐震化工事等、リニューアル事業の強化
4. 新エネルギー、製造、造成等、通信分野に次ぐ新たな事業領域への参入
5. 土壌汚染対策、廃棄物処分場等、環境関連分野への取り組み強化

3. 戦略(2)

■ 建築事業戦略

誠実な営業 (提案、コスト)、誠実な施工 (ものづくり)、誠実なフォロー (建物ケア)を通しての
お客様からの信頼の向上

単位 : 億円

	H23/3期		H25/3期
受注高	1,200	➔	1,300
官庁	50		50
民間	1,150		1,250
売上高	1,260		1,250

■ 重点施策

1. 竣工後の建物ケアの充実と お客様との信頼関係の一層の強化
2. お客様の要望に素早く的確にお応えする提案力・コスト力の強化
3. 品質に対するお客様の安心感・納得感の向上へ向けた取り組みの強化
4. リニューアル専門子会社ケーアンドイー(株)との連携によるリニューアル事業の強化
5. 省エネルギー、低炭素排出等、環境負荷を低減する建築に対する取り組み強化

3. 戦略(3)

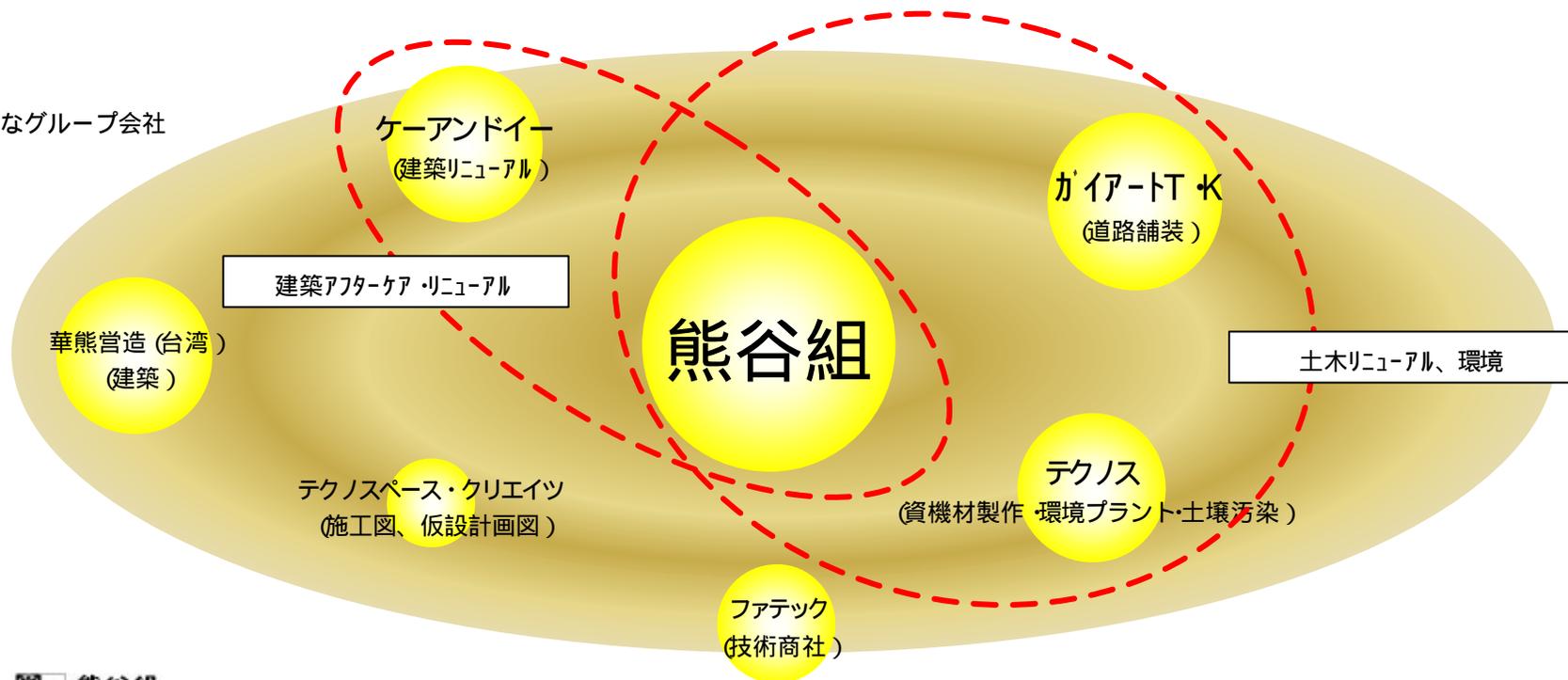
■ グループ戦略

グループ各社が保有する技術・商品を活かした連携営業の強化

ケーアンドイーとの連携による建築アフターケア、リニューアルへの取り組み強化

ガイアート・K、テクノスとの連携による土木リニューアル、環境分野への取り組み強化

■ 主なグループ会社

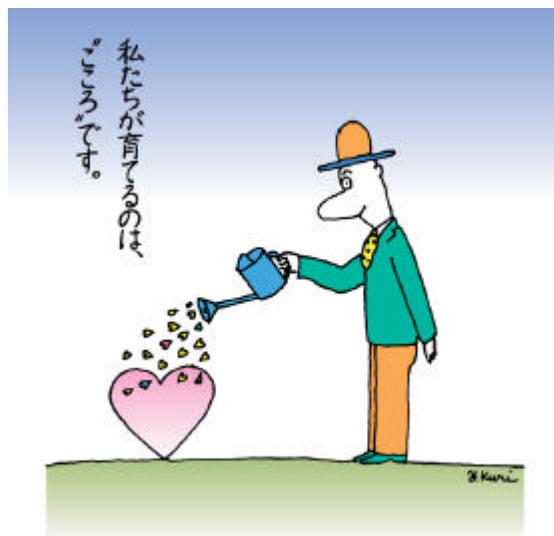


4. 数値目標

【連結】		単位：億円	
	H23/3期		H25/3期
売上高	2,500		2,570
営業利益	37 1.5%		46 1.8%
経常利益	29 1.2%		38 1.5%

⇒

【単体】		H25/3期	
	H23/3期		H25/3期
受注高	1,900		2,000
売上高	1,940		1,930
営業利益	28 1.4%		33 1.7%
経常利益	20 1.0%		25 1.3%



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、種々の前提に基づき策定したものでありますが、将来の業績等を保証するものではなく、経営環境の変化等により変動する可能性があります。